

3年生の地図指導は 方位 → 距離・縮尺 → 記号 の順で教えよう

玉川大学教育学部教授(前愛知教育大学教授) 寺本 潔

① 「あっちの方」と東西南北

3年生の児童に「行ってどっちの方にあるのかな?」と尋ねれば「あっちの方かな?」と答えが返ってくる。だから「あっちって、どっち?」「この教室から正確に言うどっち?」と切り返すとよい。教室内で方位の感覚が保有されていないと答えに窮するのでそこを突くのである。多くの教室では黒板のある方位が西になっているため、廊下側が北を指している。「地球上のどこにいても向きを示す便利な言葉があります。それが東西南北です。」と切り出して、全員を立たせて廊下側を向かせ、両手を広げて東西南北を唱えさせる。このときに「右手がいつも東になるのではないよ。必ず北を向いた場合に両手を広げると右手が東に、左手が西を指します。」と確認することが大切である。さらに「右手の指す東の方位に10分くらい歩くと駅があるね。その先にはスーパーが、さらに国道を越えて住宅街の後ろに山があるね。」と学校の四方位にあるランドマークを再認させるように促すと効果的である。もちろん、東西南北の文字を書いた紙を教室の柱や壁に貼り付け、中央の天井に円形の方位盤を貼り付ける

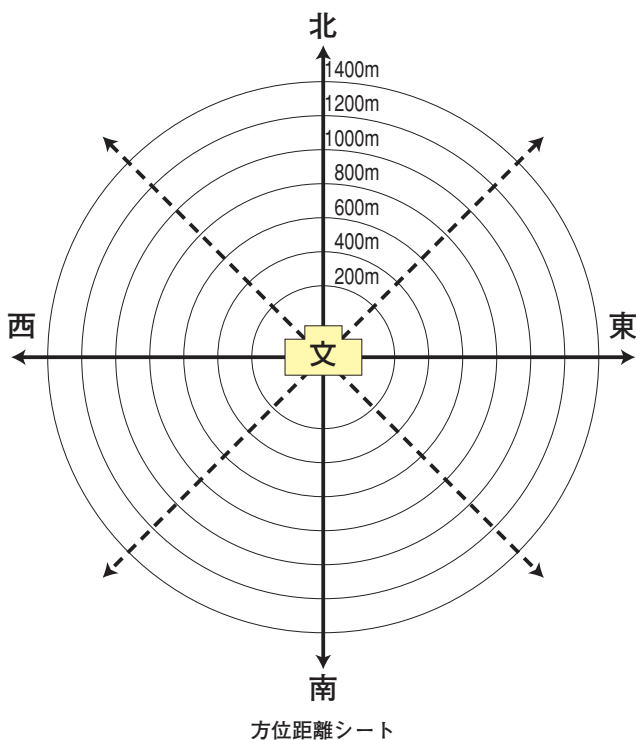
のを忘れてはいけない。児童の体の中に精神的な方位磁針を設置するように意識して指導してほしい。

② 方位距離シートの活用

次に、学校からおもなランドマークまでの距離を方位と照合させるとよい。その指導に便利な教材が次の図のような方位距離シートである。このシートには、駅やスーパー、都市公園、病院、市役所などおもな建物だけでなく、線路や国道、河川、海岸線などの線的要素も大まかでよいから書き込ませると学区のイメージが形成され、その後の社会科学習に生きてくるので一押しの指導法である。

方位距離シートは、学校を中心に各方位に応じた距離を示す数字が記入されているため、距離感が方位感覚と同時に形成できるスグレモノ。社会科のプロ教師なら、このときに「北と東の間にスーパーがあるね。」この方位を呼ぶ便利な言葉を「北東ほくとうと呼びます。」と八方位もついでに扱いたい。八方位の名称を習得させたら、学校のどの方位におもなランドマークが、どれくらいの距離にあるのかを言葉で表現させると言語活動が豊かになる。

一般に、人間の認知地図は方向感と距離尺度が備われば構造化が進むといわれている（心理学で有名なピアジェの理論）。学習を通して社会認識の構造化を図るうえでも社会的物事・事象が身の周りのどこで起きているかを正しく認知することは不可欠の学習である。なお、縮尺については実際の距離が地図の上ではこれくらいの長さで示されていることにふれる程度でいい。何千分の一縮尺などといった数字は扱わない。



③ 便利な地図記号

「言葉でここは畑や田んぼ、住宅といちいち書くよりも便利でわかりやすい方法はないかな？」と切り出せば、すぐに「マーク（しるし）を決めればいい。」「地図記号というマークを知っているよ。」と答えが返ってくる。それほど児童の身の周りには地図記号が多く見られるからだ。学区の絵地図づくりや買い

物をした店の場所を示す地図（買い物地図）を作成させる場面でシールの色や形を決め凡例を片隅に置くことでわかりやすい地図になることをきちんと教える必要がある。

一方で、「描く地図はすき間がないように同じ土地の使われ方の場所には同じ色で塗りつぶすか記号を貼り付けなさい。」と指示すればおのずと凡例や地図記号がどれほど便利な道具であるかがわかってくるはずである。ここで、教師としては街角にあるブリキ地図（商店街の通りに設置してあるブリキ製の住宅地図のこと）の写真やマンションの売り出し広告に付いている地図、カーナビの地図、ゼンリン社の住宅地図、国土地理院の地形図など、実社会で使われている地図も見せてあげたい。そうすることで地図や地図記号が自分たちの社会生活を支えている事実に気づかせることができる。

また、児童は地図記号の形に興味を示す場合がある。消防署や郵便局、神社などを例に記号の由来を考えさせたり、外国の地図記号を紹介したりして、地図記号がいかに世界中で活用されているかにふれることも発展的な学習になって面白い。その場合、建物だけでなく駅や線路、道路、橋、トンネルなどの線も実は地図記号であることを押さえておきたい。

④ 品物輸送地図で市内外を扱う

「ものを売る仕事」の単元で、店内で売られている食料品がどこからやってくるのかを調べる機会がある。豊富な品揃えや新鮮な季節の品物売るスーパーの売り方の工夫を調べさせる過程で扱いたい箇所である。

食品のトレーサビリティ（生産履歴追跡）

への関心が高まっている現在、生産地や出荷元の表示はスーパーの店内でも目につく情報である。これを調べさせたり、特売のチラシを点検させたりすれば多くの地名を拾い上げることができる。中には外国の国名も登場するから、どうしても日本地図や世界地図が必要となる。掛地図で地名や国名を確認することはもちろんスーパーのある自分たちの市までのおおよその距離や方位も測らせたい。このときも縮尺が活躍する。1000kmも離れた北海道の男爵いもが北からトラックで市内の市場に運ばれてきた事実やニュージーランドのキウイフルーツが南から何万キロメートルの旅をして運ばれてきた事実気づかせたい。場合によっては4年生から地図帳を借りて生産地を調べる学習をしてもよい。近隣にあるスーパーに世界中の食材が集まっている事実を驚きの眼で見つめることこそ、広い視野で物事を捉える社会科らしい見方・考え方の原動力だからだ。

これは工場でもものがつくられている題材を



学ぶ場面でも当てはまる指導法で原材料や製品が内外から工場に運ばれている様子を地図に表して考えさせる基本的な教え方である。画用紙の表に日本地図を裏に世界地図の白地図を印刷し、児童に配布したい。「〇〇市の△△スーパー」という文字を日本地図に記入させ、次に生産地の都道府県名や国名と食品名を書かせ、生産地からスーパーに向けて矢印⇨を書き込ませればできあがる。

⑤ 「わたしたちの市」をどう扱うか

「ア 身近な地域や市（区、町、村）の特色ある地形、土地利用の様子、おもな公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など」が新しい学習指導要領の内容(1)にある。これも基本的には方位→距離・縮尺→地図記号の順に指導するとよい。学区の絵地図づくりを行った経験を想起させて市の白地図を提示し「これは私たちの住んでいる市の地図です。◎は市役所の地図記号です。外枠は市の境界を表します。市の範囲は東西と南北で何キロメートルくらいありますか?」「市役所を中心にして言えば学区はどの方位にあるのでしょうか?」と発問する。方位や距離を軸にしたこの指導で市の形や広さを印象づけ、市と学区の位置関係がわかり、この単元の学習は市役所を起点に考えるとよいという印象を与えることができる。

次に、「私たちの市の周りにはどんな市が隣り合っていますか?」「土地の低いところや高いところ、広々と開けた土地や山々に囲まれた土地はありますか?」と尋ねて視野を拡大させておく。「市の西には〇〇市が、北には〇〇町が隣り合っています。〇〇川に沿った土地は低いと思います。」と方位名称や

地名を使って言い表す授業（活用型の授業）を行うのである。

次に、記号の学習に移行するのであるが、いきなり土地利用の記号を持ち出しては難しくなる。ノートに「にぎやかな場所・住たくの多い場所・工場の多い場所・田畑の広がる場所」の四つの言葉を書かせ、「この四つの言葉を使って市の様子を説明しなさい。」と指示するのである。これらの言葉を駆使することで、しだいに自分たちの市の様子を説明できるようになる。これも言語力育成の観点から推賞したい指導法である。さらに今回、学習指導要領に新たに入った「古くから残る建造物」もその位置や昔の様子、いわれなどを調べて白地図に書き表すことで「古くから残る建造物は新しい住宅地や工場のある地区にはない」といった発見を引き出し、新旧の市街地の広がりを意識させることができる。これらは、単元の大目標である「地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。」を達成するための布石になる。

ひと通り土地利用の説明ができるようになったら、商店街や住宅地、工場、田畑などの地図記号を当てはめさせて市の土地の様子を地図に表せればよい。すると駅や道路などの交通の広がりもわかってくる。

最後に指導するのが、「人や物の行き来によるつながり」である。スーパーや工場で扱

っている品物が、どの道路や鉄道を使って行き来しているのか、周辺の自治体と通勤や通学、物流などでどのような行き来があるのか、県内や県外・外国とのつながりはあるか、などについて調べていく。これらはいずれも児童の頭の中に形成される認知地図の認知地点（アンカー・ポイント *アンカーとは船の停泊で使う碇の意味）を増やしていく作用につながっていく。つまり学習指導要領の目標でうたわれている「地域の地理的環境」の理解を深めるとは、このようなステップで順に認知地図を構造化していくことを指している。

⑥ 4年生の地図帳指導に向けて

飲料水や電気、ガスの確保、廃棄物の処理などを学ぶ4年生1学期にも地図帳は活用度が高い。キーワードは「それらはどこから来るの？」である。3年で習った自分たちの市で使っている水や電気、ガスの確保はどのようになされるのかを地図帳でたどらせる。廃棄物の処理については市内における清掃工場の位置が大事である。最終処分場などが他の市の協力を得ながら進められている事実などを3年の地図学習の延長で理解させるように促す。人々の健康で快適な生活環境の維持にとってこれらの対策や事業は計画的、協力的に進められていることが地図を通してわかってくる。

🏠 寺本先生のひとくちアドバイス

- 入門期の地図指導は方位 → 距離 → 地図記号の順で指導すると効果的。
- 学区の地図のまとめには方位距離シートを活用すると児童の頭の中に地図ができる。
- 習得した方位名称や地名はただちに言葉による説明で活用すれば身に付く。